

はざれ位ミ二三は知らせるのもよし。それにはたゞ單に模造紙で作つて、衝立に貼つておいてもいゝが、誘導保育案の主題によつては、たやすく是れを取り入れられるものがある。例へば運動會、園遊會などの裝飾用に。夏ならば各國の船を浮べて、それに掲げてよい。

「世界中の海が」(吟誦)

せかい中の海が、みんな集つて、一つの海になつてしまつたら、みんな大きな海になるでせう。

せかい中の木が、みんな集つて、一つの木になつてしまつたら、みんな大きな木になるでせう。

せかい中の斧が、みんな集つて、一つの斧になつてしまつたら、みんな大きな斧になるでせう。

せかい中の人が、みんな集つて、一人の人になつてしま

観 察

第一週

六八

つたら、みんな大きな人になるでせう。
大きな人が、大きな斧で、大きな木をきつて、大きな海へ、づしん、ざさりきたふしたら、みんな大きな音がするでせう。

これはいろいろに譯されてゐるが、この譯し方が一番子供には覚え易く、意味もわかり易いと思ひ、これを用ひてゐる。

第三週

六勇士

六人の勇士が、夫れづづ思ひきつた行動で活躍するのは、殊に大きい組の子供には我が意を得たようなうれさで興味を持つ。これも原作はもつゝ複雑で、一人の行爲がなかく長いし、混み入つてゐるのを、それでは、六人の一人づゝの行爲がはつきりしないので、わかり易く改作したところもある。

カレンダー

年少組参照、但し年長組であるから銘々に工夫させて作らせる様に種々観察の範囲をひろめ誘導しやう。そして一週間は七日、一ヶ月は三十日、三十一日あること、二月は二十八日である事もみ出させやう。

動物寫真

動物園をつくる豫備の觀察。動物園に行けたらそれが一番いゝ。その代りであるから動物の繪でも寫真でも、動物の生活をかいたものであり度い。話合ひ乍ら、けもの、鳥、爬虫類、魚等の種類をわけて注意し、それ等の差を言はせるのもよい。

雪

雪がふつた朝、さら／＼のものを蟲めがねでのぞかせ、雪の、花のやうな形をみせやう。

第二週

手 技

世界各國の國旗、土人の風俗畫

動物をつくつてゐるゝ種々な日本にはゐないのが出て來、他國の地名が出てくる。そこでまだ地圖は觀念としてむづかしいからただいろ／＼なお國があること、その國々の風俗、國旗なごを、かいた繪や寫真をみ乍ら話し合ふのも、もう小學校へ行く子ども達にはよいことであらう。

第三週

霜柱、水仙(年少組参照)

水仙は葉、莖(地下、地上)根の部分も觀察させやう。

第四週

冬の芽(年少組参照)

ふくじ草

冬咲くつよい花にして、この可愛いらしい花をお部屋に置いて観るのもよいことであらう。詳しくみることはない。